

横田英史の 書籍紹介コーナー



GE帝国盛衰史

～「最強企業」だった組織はどこで
間違えたのか～

トーマス・グリタ、テッド・マン、
御立英史・訳
ダイヤモンド社 2,200円(税込)

ウォール・ストリート・ジャーナル紙の記者が、GEの凋落過程とその原因を追ったノンフィクション。名経営者とうたわれたジャック・ウェルチ時代に凋落の原因は生まれ、後継者のジェフリー・イメルトは病巣に不作為だったことを本書は明らかにする。

GE凋落の主因は、金融部門のGEキャピタルを使った会計処理の工夫で長年数字(売り上げ)を作っていたところにある。GEの業績をお化粧し、身の丈以上の配当や自社株買いの原資とした。そこに9.11やリーマンショックなどが発生し、GEマジックの歯車は逆回転する。多国籍コングロマリット企業の代表格だったGEは解体に至る。

本書の主演はCEOを約16年務めたイメルトである。イメルトは過去の栄光を取り戻そうと、買収や海外市場の開拓、テクノロジー企業への転換を図るが、「貧すれば鈍する」でいずれも失敗に終わる。

NFTの教科書

～ビジネス・ブロックチェーン・法律・会計まで
デジタルデータが資産になる未来～

天羽健介、増田雅史・編著
朝日新聞出版 1,980円(税込)

NFT(非代替性トークン)の現状を事例ベースで紹介するとともに、法律や会計、税務の問題、未来予想図をまとめた

書。実際にNFTビジネスにかかわる27人の実務者が書いており、説得力に富む。特に流行りのメタバースとの関係は必読だろう。

NFTの事例として、アート、国内外ゲーム、メタバース、スポーツ、トレーディングカード、ファッション、音楽を取り上げる。NFTがこれほどまで広がっているとは寡聞にして知らなかった。動きが激しい分野なので陳腐化も早そうだ。技術課題に関しても、多くはないがページ数を割く。

出色なのは、スマホゲームgumiの創設者による「NFTの展望」だ。NFTのインパクトをうまく伝える。NFTはパラダイムシフトの一翼を担っており、単なる投機と考えると将来を見誤ると指摘する。この部分だけでも本書を読む価値がある。

WORLD WITHOUT WORK ～AI時代の「大きな政府」論～

ダニエル・サスキンド、上原裕美子・訳
みすず書房 4,620円(税込)

技術革新によって世界は豊かになる一方で、「仕事が足りない世界」「人間に十分な数の仕事が存在しない未来」がやって来る。構造的テクノロジー失業の時代に人類、政治、社会はどう対処するべきかを論じた書。

経済的繁栄の実現のために、現在の政治や社会、企業は機能している。しかし仕事が足りない世界は経済的にはすでに繁栄しており、国家が富の分配に大きな役割を果たすべきである。条件付きユニバーサルベーシックインカムや余暇政策、教育制度を遂行すべきだとする。

AIの進歩の過程、AIが仕事を奪いつつある現状、AIの進歩が行き着く先のユニバーサルベーシックインカムなどの議論には既視感がある。しかし、仕事が足りない世界に対処するための条件付きベーシックインカム、余暇政策、教育の話あたりからがぜん面白くなる。我慢強く読むことが必要な書である。

M&A後の組織・職場づくり入門 ～「人と組織」にフォーカスした 企業合併をいかに進めるか～

齊藤光弘・編著、中原淳・編著、東南裕美、
柴井伶太、佐藤聖
ダイヤモンド社 2,640円(税込)

M&A(企業合併)の成功のカギを握る、PMI(post merger integration: M&A後の統合)プロセスの要諦をまとめた手引書。「組織と人」の融合をどのように進めるかを、アンケートデータを絡めながら解説する。

M&Aは企業文化や人事制度、評価制度が異なる2社が一緒になる大事業である。人と組織の統合はM&Aの成否を握る大問題だが、契約締結まで表立って動けないし、隠密裏に交渉は進むので相手方に関する情報に限られる。その結果、クロージング後に組織文化が衝突しコミュニケーション不全に陥りやすい。M&Aの60%超が失敗に終わる。

PMIの組織づくりは、解凍、変化、再凍結の3段階を踏むべきだとする。相手方をリスペクトしつつ、社会人として当たり前とも思えることを、着実かつ確実に進める。NGワード集の作成が重要というのにも興味深い。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

